

介護体験を 聞く会



ホームページ
http://www.yanagida-kaigo.co.jp/

第196回 介護体験を聞く 会

平成30年5月26日

(土) 開催

出席者(職員)・・・柳田院長、
柳田CM、柏倉CM、飯
田CM、板井、吉田、佐
和田、長谷川、豊見坂、
太田、柳川、田渕、杉山、
工藤
出席者(家族・他)・・・Yさ
んの息子さん、
今野さんご夫婦、柴山さ
ん、
野々目さん、長島さん、
藤田さん、中島さん、
多田さん
議題
Yさん(89歳女性)の
事例検討
DS、DC家族相談
GH運営推進会議

地域の音楽会についての
意見交換

Yさんの事例検討
検討の目的

入居して14年が経ち、
5月から新たに訪問診療
が始まってグループホー
ムでどのようにして生活
を送っていたか。

氏名 Yさん(89歳女性)
生年月日 昭和3年9月
20日

介護度 要介護5
利用開始日 平成16年
6月30日に入居

*出身地 長野県埴科
郡東条村田中(現在の長
野市松代町)

趣味 赤ん坊や人形が好
きで、あやすのがとても
上手

性格 穏やか
主介護者 長男

*既往歴

会報第197

平成30年6月16日発行

発行所・・・(有)明寿会

住所・・・川崎区中島1-13-3
電話044-233-0061

*今月は30日です。

・アルツハイマー型認知
症

・尿路感染症

・腸重積

・脳梗塞

・てんかん

・盲腸癌

・H16年に病院で胃に
ポリープと胃と食道の間
にヘルニアがあるとの診
断を受けるが特に問題は
ないとの事だったが、本
人はよく「胃痙攣がする」
とよく言っていた。

*現在の内服薬

・酸化マグネシウム33
0mg：便通をよくする薬

・シンラック錠2：便秘
時に頓服として処方され
ます

*生い立ち・経緯

長野県埴科郡で生まれ、
6人兄弟の長女として育
つ。

18歳 高等小学校卒業

後、本人が18歳の時に
父親が亡くなり長女だっ
たYさんが一家の働き手
として養蚕に従事する。

S26年頃 23歳戦後、
同郷の夫と見合い結婚を
する。川崎に親戚がいた
事もあり、長野から川崎
に引っ越してくる。夫は

一生懸命働き、お金を使
わない人で自宅とアパー
トを建てた。二男一女を
もうける。Yさんは内職
をし、子供三人を大学ま
で出した。

S34年 31歳 長野
の実家に子供を連れ実家
の建て替えの為、事前の
お手伝いに行っている時

に伊勢湾台風の被害に遭
い仮住まい蚕屋が潰れ祖
母が負傷し亡くなってし
まう。本人や母親も腰を

強打し入院する。現在も、
その祖母の事が頭にある
のか「ばあさん」とよく
言っていた。

H10年 70歳 夫が
癌で亡くなられ、その直
後から痴呆が始まりお金

の心配などがでてくる。
H12年 72歳 認知
症の診断を受ける。近所

一人で行き来する。近所
に知り合いも多い事から
一人で出かけていき家族

に「〇〇さんの家に居る
から」と連絡するものの、
違うところに行っている
事などあった。何も言わ
ず出ていき、時々帰れな
くなり、その事が当時の

家族には一番の心配であっ
た。大田区の池上まで歩
き、警察に保護されたこ
ともある。本人は川崎に

住んでいてという意識は
なく、長野県のご主人の
実家にいると思っており、
そこから近くにある自分

の実家に帰ろうと出かけ
る事が多かった。

H13年7月12日 要
介護2で柳田デイケアに
通い始める。月曜日から
土曜日の6日間まで仕事

に行っていると言ってい
た。

H16年 家族は徘徊が
心配な事もあり、認知症
が進んでもっと色々な事
が分からなくなる前に施

設に入居したほうが良い
と思い、平成16年グルー
プホームに入居する。

Yさんの旦那様は今のメ
ルシャン(元の三楽オー
シャン)にボイラーマン
として現在のヨーカドー
の北側の味の素のうま味
体験館の場所で58歳ま

で勤務され70歳までビル管理の仕事を東京で働いていた。71歳で前立腺がんになり75歳で他界。

*現在のADL

今現在は、要介護5で全介助にてケアにあたっています。

歩行：車椅子で移動

食事：主食はお粥で130g 副食はペーストにて対応をし食事の際は左に傾きがあるので姿勢を正し御本人様に声掛けをしながら口腔内に残留物が無いかを確認し次の食事となります。

更衣：全介助にて対応。

日中はリハパン＋パット。夜間はテープ式＋パットです。

排泄：全介助にて対応。日中は昼食前にトイレにて陰洗し清潔にする。今現在は、仙骨あたりに褥瘡があり紫雲膏＋カテリールで毎日処置にあたり少しずつ改善されてきています。夜間帯は、テープ式おむつでの対応となっています。

入浴：全介助にて対応。シャワー浴又はデイサー

ビスにて機械浴となり、入浴後は体全体が乾燥肌のため保湿クリームでの対応をしており仙骨あたりの褥瘡処置あり。

*入居から現在までの様子と対応

平成16年6月30日にご家族様から徘徊が心配な事と認知症がだんだんと進んできてもっと色々なことが分からなくなつてしまいう前に施設へと、この柳田グループホームへ入居となった。今までに腸の手術をしたり尿路感染症や誤嚥性肺炎などで入退院を繰り返してき

ましたが、今現在では時間をかけての食事となりますが一回一回飲み込みを確認しながら食事介助にあたっています。排泄や更衣も全介助となりますが常に清潔を保ちながらケアにあたっています。普段の日中の過ごし方では、職員や他利用者様からの声掛けにもよく目を開き反応をし領いたり声を出し答えようとしてみたり笑い笑顔を見せてくれることがだんだんと増え、手を軽く握ると握り

返して左目を開かれる。今後の対応としましては、5月から開始された月2回の訪問診療が息子さんの希望でもありグループホームへ来られますので、密に連携を取り今現在の褥瘡の治療にあたっていると同時にまた誤嚥性肺炎へとつながることがないように注意をしながらYさんご本人さまが1日を安心に過ごして頂ける様に努めます。

*家族相談会より

柳田CM：今は臨港病院の先生が往診してくれることが分かって契約に行かれたんですね？

Yさん息子：今までは何かあると連れて行っていたが訪問診療に月2回までですが来てくれる。365日24時間診てくれるのでありがたい。

佐和田：下痢便に近い状態なので酸化マグネシウムを半量にすると決まり行なっています。褥瘡も良くなりあと1、2週間で治るのではないかと思います。

柳田CM：在宅の方に病院が向う形になってい

る。ご家族も高齢になつてきたので今後は医療と介護で上手く連携を取りながら進めていけたらと思います。野々目さん：最近排泄が駄目になり6月から要介護3→4になった。老々介護なのでグループホームを検討中です。長島さん：（ご主人が）朝から体操をして、デイサービスに通うのがとても楽しいみたいです。

*グループホーム運営推進会議

・防災の為、全室にスプリンクラーを設置する（8月を予定している）

・4月より職員の変動があり、新体制を構築している段階。

・平成30年度介護報酬改定により短期利用、認知症対応型共同生活介護の算定要件見直しを行なった。緊急時には一名の利用可。

5月から訪問診療一名開始。協力医療機関として臨港病院の医師、看護師、薬剤師が月2回ホームに訪問し適切な医療提携をしている。今後、通院か

ら訪問診療に切り替える方は家族と相談し決めていく。歌うだけでなく楽器を持ち二つの事を同時に行なうと人間の脳は倍以上に動くという事から、手持ちの木魚を導入した。今後も音楽に力を入れていく。

デイケア室

工藤

鯉節と昆布

江戸時代から明治にかけて、当時の日本の経済をになつてきたのが北海道から日本海をめぐり、大坂までを行き来した北前船です。約10ヶ月かけ、荒れる日本海から瀬戸内海をめぐり、港港に立ち寄って立ち寄りながら商売をしていた。一航海で現在のお金で一億円をかせいでいたそうです。北海道から昆布やニシンを積み、日本海各地の港をめぐりながら責任者の船頭さんが商売をした。その過程で日本の和食のお出汁が生まれたそうです。日本の大消費地であった大坂からは酒樽や米俵、塩をつみ、北海道などでは貴重なぼろ布を集めて

積んでいったそうです。私が岡山の学生時代に住んでいた下津井港は北前船の寄港地でした。今でも下津井節という民謡が受け継がれ、全国で歌われている。まさに日本の文化を育てた航路であり、当時の都会であった大坂から当時は貴重な綿製品のぼろ布を集めて北陸地方へ積んでいったそうです。まさに日本の文化を育てた航路であった。

5月のドライブ 「心と身体で季節 を感じて」

5月に入り、暖かな日が増えてきたので屋外歩行も兼ねて「はぐくみの里ドライブ」へ行ってきました。16日は天気も良く、身体で季節の風を感じて頂き、そこに植えてある畑や田んぼ、花やハーブなど様々な草木を目で見えて楽しみ、また昔を思い出して懐かしんで頂けました。2日間予定していましたが、もう1日は天候に恵まれず日にちをずらしたにも関わらず、また小雨という状況

でした。ですが皆さんの「出かけた！」「という強い気持ちから場所を変えし「東扇島ドライブ」に行きました。こちらも海のおいを感じ、間近で広い海を見てとても喜んで下さいました。近くにはつりを楽しむ方がたくさんいて、その様子が気になり自ら近づいて「釣れますか？」と話しかけたり「何が釣れるのですか？」と聞くなど、交流をはかる姿を見る事も出来ました。利用者さんの中には「病気がから」「迷惑かけるから」と外出や運動に消極的な発言をされる方も多いです。平坦になりがちな日常生活の中でいつもと違う時間を持つ事はとても大切だと感じています。今後日々の生活に刺激を与え、利用者の皆さんの心の機能向上や生活のハリを保つお手伝いとなるよう、屋外歩行や外出のプログラムを取り入れて行きたいと思っています。
デイサービス 児玉

『富士見中学校体育祭見学』

五月十二日(土)に

デイクア、デイサービス、グループホームの利用者様達七名をお連れして体育祭見学へ行きました。暑いくらいに良く晴れた日で学校へ向かう車内では皆さんわくわくされていました。学校に到着するとたくさんさんの生徒たちがいらして元気な声が響き渡っていました。

リレーが始まると「頑張れー！」と大きな声援を飛ばし、Kさんは席から立ちあがり身を乗り出して応援されていました。

Iさんは自分の学生時代を思い出され「俺はレコード係で音楽をかけなきゃいけなかったから競技に出た記憶がないけど、楽しかったな。」と話して下さいました。

初めて見学に行かれたUさんは「来て良かった。元氣になった。冥土の土産になった。」とパワーを貰えたようでした。

生徒たちの活気に触れ、皆さん思い思い感じる事があったようです。

柳田デイクア 工藤



デイサービス外出風景



*認知症は記憶の断絶といわれる（まだら記憶）これをつなぎ合わせるブネ音楽理論

ブネの音楽療法は長期記憶の活性化、ステン・ブネ

「自分はだれで、どんな人間なのか？」という、アイデンティティの認識が高齢者には重要です。この認識には、これまでの人生経験の記憶（長期記憶）が密接に関係しています。認知症の人は、脳細胞の変性により記憶がバラバラに寸断されて

認知症の心理



いるという問題を抱えています。しかし幸運なことに、自然は人間に別の形の記憶も与えてくれています。感覚で覚えていく記憶です。知的な記憶機能の他に、五感（聴覚、視覚、触覚、味覚、そして嗅覚）に基づく記憶が人間には備わっています。人生における経験は、人間の複数の感覚器官にも「印象」を残します。記憶を呼び覚ましたり、記憶の断片を修復してつなぐためには、別のヒント、感覚からのヒントを脳に与えなければなりません。

ある曲を聞くと、特別な思い出がよみがえる。これはだれもが経験することです。ブネ・メソッドの音楽活動では、例えば「海」のように、だれにとっても何らかの思い出があるひとつのテーマを決めて記憶訓練を行います。実践者はテーマに関連した曲を2〜3曲選び、スイングパーギターで伴奏をします。さらに、テーマをモチーフにした、大きく、はっきりとした見やすい写真など、高齢者の五感を刺激するアイテムを用意します。

*ブネは断絶記憶をつなぎあわせ理論

*Yさんは重度認知症があり、自分では意思の表明ができない方であるが、

者の五感を刺激するアイテムを用意します。日々の介護の中で高齢者と接する際に、その方の発言はとても大切です。記憶訓練の効果は、多くの場合すぐに現れます。私は長年行っている音楽活動の中で、高齢者からたくさん面白い、そして驚くべき話を聞くことができました。「音楽写真↓物」という3段階の刺激を与え、テーマに関する経験や思い出を導くことで、その方の本来の姿が見えてきます。

*ブネ・メソッドの5つの局面

局面①音楽活動への導入 局面②音楽に合わせ

て身体を動かす 局面③声と呼吸の活動 局面④高齢者による楽器の演奏局面⑤記憶の活動

食事にはよく反応して、口をあけて食べ、いやな物は口をあけない。あるいは舌で押し出そうとされます。この方に、スエーデンのブネギターを膝にのせてもらい、「ふるさと」を一緒に歌うと、目を開けようとしたたり、声を出したり、右嘴角からよだれを出したり、足を動かしたりなどの反応があつた。これは膝に乗せることでブネギターの振動が伝わっているのである。耳からのギターの音と、足の振動が神経系を通して大脳に伝わり、大脳全体に広がったことを教えている。

ブネギターにはギターの竿の部分と銅の部分にラバーがついており、滑り止め兼用で演奏者のギターの音と振動を伝えることが出来るのである。これを今度はテーブル全体に振動を感じることができ、テーブルに手を置いた全員にギターの響きを感じることが出来る。すなわち、ギターといえども聞くことと思うが、このブネギターは体全体、五感全体を刺激する道具といえる。



（インターネットのブネミュージックを開き、ユーチューブをみることでfMRIを利用した最新の解説と理論がわかります。）

柳田。